

和史

五  
記  
箱

五  
三  
三  
何

下文通同  
先年

壬申九月廿日  
正院

下文通同  
先年  
壬申九月廿八日  
大政官

先年其其  
上取結我  
了物我務者  
琉球藩  
於今後之際  
國

事

年月日  
大政官

外務省

外務省

別紙  
相成

年月日  
大政官

琉球藩

小笠原島

仰付

年月日 大政官

外務省

割紙(通) 取紙(通) 達

取紙(事)

年月日

大政官

右之通(下) 命取紙(後) 以位

取紙(也)

外務省

審(有) 廿四日

外務省 副大臣

正院(中)

内方三十号 一月廿七 通之

奉行自

記了

白書茶 多務大少丞

口

在傳書記及新永字ナリ此後孫陸を承継し海客文  
燈迄是一返入子天方多ふる候方方之候也  
ヨリト大也

若八年下り

外務省

漢人稱臣處  
旗人稱奴才以辨別滿漢官也

福州將軍兼管閩海關稅務奴才文煜跪奏為琉球船  
回國循例免稅恭摺奏聞仰祈 聖鑒事竊照琉球國  
接貢船一隻于同治十二年十月間到閩已將隨帶進  
口貨物循例免稅恭摺 奏明在案今該船事竣回國據  
南臺口委員成基稟據在船使者東式憲并具該船置買  
內地貨物清冊前來核計共應徵稅銀二百八十三兩一  
錢九分八厘奴才查照向例批令免其輸納以廣 聖主  
柔遠深仁並宣示洋使去後隨據委員成基稟報該使者  
東式憲率領官伴水梢人等歡欣感激赴閩望 閩叩謝

外 務 省

天恩開行出口所有琉球船回國出口免過稅銀數目理  
合恭摺具奏並繕清單敬呈 御覽伏乞 聖鑒謹奏奉  
硃批知道了欽此

右我十月十五日即清十月七日京報

存子  
在清書記友鄭永寧ヨリ呈載琉球  
貢船之義付文煜疏奏之通由呈回相

五

在清書記官部 永寧ヨリを報  
琉球真船く義有文燈羅表を自  
由に用ひて其の政務を執るは  
少くも一に在り也

明治二十一年 内務省の趣

内務省の趣

その旨を分るべき事、  
内務省

琉球人支分之存留書

一 法國福州琉球館支分は係保き所務を以て為せ  
振替付多し常て見合置係与等あり其内彼  
地永住し琉球人支那人に侵入若くは奴隷時  
置つて出稼等情若く若し其係保所  
前見逃置多し各國人に見守りし甚多  
今之に身若く若く其命に如何に事置るべき

一 以後琉球人本領事面轉内漂到し本領  
事館に直り其地出稼結友し引合或方引更方  
てり多し其内自給給りし金見等中掛多

一 琉球人支分存留書

一 外國人自給琉球人先難し地係之之救出  
更之支那人支分(自給)等し事也  
此より直り同合友もてり多し其内  
五人琉球之法國在地と誤認し其方  
若く若く

一 自給琉球人對外國人支分之事業等由し  
外國人自給支分引込若く引合て置る  
之若く自給人自給引合し其方  
若く若く

一日此法人對陽人謝語之系原若亦其言加國  
人亦本領事、指其之系、其後經其開查、  
情宜又自一其言又直、遂其利之也  
其言何也

原の領事

年月

福之田

寺島外務卿殿



甲子百三十一 四月五日 達了

公行る長

輔

三條右大臣兼 寺島公穆

立清隊球人等之令在先般厦門領事所得指  
方何之由也  
國地方に球人等派不候之旨刊好方日領事福島  
九成より別紙之通何事一併球人等派不候之旨未  
元之由也  
改訂之旨  
引合

外務省

引合  
神何一越之生法  
又之由也  
一之由也  
一之由也





甲第百三號

琉球人海上備有福島領事

令之別紙其屬伺

在清琉球人受分之後、付先般厦  
門領事、均指其同、在受分追、  
既、沙法、子、子、与、水、指、人、与、者、之、  
各、未、經、法、國、地、方、一、琉、球、人、漂  
流、亦、被、其、官、一、并、見、迎、也、子、  
出、耳、之、秘、石、扱、方、日、領、事、福、島  
九、成、了、別、紙、之、通、了、伺、出、也、一、件

外務省

琉球藩、所、受、分、之、版、未、免、分、法  
行、在、不、未、成、其、内、之、外、國、之、為、者  
明、白、之、事、也、到、琉、球、在、場、者、也、  
少、以、系、表、鄭、德、時、代、理、之、使、引  
令、船、也、先、由、其、及、和、置、其、位、也  
候、之、所、在、也、以、別、紙、伺、之、候、也  
矣、張、手、心、以、為、所、扱、也、之、外、者  
之、官、表、也、其、者、冒、琉、球、人、之  
自、身、我、之、錯、及、依、賴、其、氣、又、也  
外、國、人、之、真、之、我、之、錯、之、指、告、也、

御

外務省

公信与志

甲第百三号

琉球人等分上之身分福言照事

列紳士等白

在法琉球人等分上之身分先般厦門領事  
心持据本向所委進出此由法之... 与由指令

九成... 不致... 通... 何... 出... 一... 休

外務省

琉球... 藩... 處... 分... 之... 版... 未... 充... 分... 法  
... 不... 未... 成... 其... 內... 之... 外... 國... 之... 為... 知  
... 白... 之... 要... 之... 起... 琉... 球... 人... 等... 情... 事... 也  
... 少... 以... 系... 表... 鄭... 德... 時... 代... 理... 之... 便... 引  
... 今... 船... 之... 先... 之... 身... 及... 和... 置... 其... 位... 之  
... 後... 之... 所... 在... 其... 身... 以... 列... 紳... 士... 等... 之... 報... 告... 也  
... 矣... 張... 手... 心... 以... 為... 報... 告... 之... 外... 者  
... 之... 官... 吏... 等... 亦... 有... 冒... 稱... 琉... 球... 人... 等... 之  
... 自... 身... 之... 姓... 名... 及... 依... 親... 之... 姓... 名... 又... 有  
... 外... 國... 人... 等... 之... 姓... 名... 及... 依... 親... 之... 姓... 名... 又... 有

法國友吏之多不獲其の先  
打控置を軟了及指合を以て  
相伺也

八月四日

外務省

大臣三條實美殿

外務省

伺之趣其省見之通相達置  
可申事

明治八年四月廿日



日本文書館蔵書

琉球人其多也何言

一 法王福州琉球館設在福州後海墘  
海越意思らるる在極南自其多也何言  
見合置後とす其内一も其内  
得地永住と琉球人其多也何言  
者多我成時とす廈門色出極  
等致吾其若也其多也何言  
於眼其見遊置其多也何言  
之身其多也其多也何言

外務省

其多也何言

其多也

一 法後琉球人其多也何言  
之事其多也何言  
法其多也何言  
其多也何言  
其多也何言

其多也

一 外國人自琉球人其多也何言  
之其多也何言

獲送等事及此等事即此法方  
より直に同令及此等事即此法方  
我左に在るに外國人の臨海に在る  
屬地と信託地とありて此等事  
不苦也

一自他國人の對外國人の不法な事業を  
行ふ外國人の此等事即此法方  
之節に在るに此等事即此法方  
取扱に規則に在るに此等事  
多し加ふ事也

外務省

一自他國人の對臨海に在るに  
此等事即此法方  
取扱に規則に在るに此等事  
多し加ふ事也

右等事也

廈門領事

八年四月

福島九成

外務省



外務省

別紙内務省伺琉球藩處分着牙之順序  
見込之儀朱書之通及指令候條此旨為  
心得相達候事

明治八年五月十八日

太政大臣三條實美

太政官

琉球藩上京官員江詭諭往復之顛末取調伺出候  
裏御指令之極致承知候然、處條款處分之義ハ  
官員派出被仰付候上緩急見計可取計云々御達  
ニ付猶又着子順叙之見込件ニ中上候

一清國関係之事ハ都而聯絡致候故下ノ四ヶ條  
共御察止之命令書派出之官員一御下渡於藩  
元嚴達為致其内賀慶使派遣隔年朝貢之ニ件  
ハ其期限モ差迫リ不可差置急務ニ付御請之  
有無、不拘断然差苗可然哉在福州琉球館及  
ト藩王代替ニ付冊封廢止之ニ件ハ時期切迫

太政官

ト申ニモ無之候間廢徹遠速ノ間ハ一時該藩  
之都合ニ任ヤ可也

一藩王為謝恩上京之件ハ派遣ノ官員ヨリ及復  
詭諭承伏為致慶候得共若就病氣事實不得心  
節ハ延期間濟差向親族名代ヲ以上京為致可  
也

一鎮臺支當設立之儀ハ既ニ御達濟ニ付陸軍省  
派出之士官當有派遣ノ官員ト同時出張諸事  
相議ヲ遂候様同者一御下命有之度  
一明治之年号ヲ奉ニ年中ノ礼式御布告通奉



之件

一 刑法之儀司法省定律通奉行為致候ニ付差向  
取調ノ為メ擔當ノ者上京之件

一 少壯之者學事修業時世通知之為上京之件

前三ヶ條御請仕候得共邊緩ノ取人實際猶

緣ニ難國候間沁遣ノ官員ヨリ督責速ニ復

行可為致候

一 藩政改革之儀ニ御請仕居候得共猶又説諭ヲ

加ヘ適度ニ應ニ着手為致度布置之體段ニ預

メ御治定之御旨趣沁出之官員、為心得度ニ

太 政 官

ニ付御沙汰有之度依テ為御参考別紙ニ以相

同候

右件々至急御下令有之度照藩之儀兼而上申仕

候適名分條理而已ヲ以一時ニ致多事ハ儀ハ至

難ノ情實有之候ニ付先藩政ノ體面ノニ改メ

事務ヲ各官ニ配當セシメ現實之取扱振ハ片前

之通振置其餘ハ一切不問ニ置キ漸次人氣ノ折

合ヲ見定メ順叙ヲ造テ着手致シ度存ル以殿取

付ケ也

明治八年五月

内務大臣保利通

大政方任三條實美殿

伺之通

明治八年五月十六日

太政官

此の事は通事館の事務長に申し渡す事  
手紙の形では見出しの事務長に申し渡す事  
資一様小京及び、この字の形は去りぬ事  
外書及び、この字の形は去りぬ事  
この字の形は去りぬ事  
この字の形は去りぬ事

八年五月十九日 奥官

外務省大臣  
為

太  
政  
官

琉球藩上京官員江說諭往復之顛末取調伺出候処御指  
令趣致承知候然ル処條款處分之儀ハ官員派出被仰付  
候上緩急見計可取計云々御達ニ付猶又着手順叙之  
見込五件ニ申上候

一清國關係之事ハ都而脈絡致候儀故下之四ヶ條共御廢  
止之命令書派出之官員江御下渡於藩元嚴達爲致  
其内賀慶使派遣隔年朝貢之二件ハ其期限モ差迫リ  
不可差置急務ニ付御請之有無ニ不拘断然差留可然  
哉在福州琉球館及シ藩王代替ニ付冊封廢止之二件ハ時  
期切迫ト申モ無之候間廢徹遅速之間ハ一時該藩之都  
合ニ任セ可然哉

一藩王爲謝恩上京之中ハ派遣之官員ヨリ反復說諭承伏  
爲致度候得共若就病氣事實不得止節ハ延期聞濟  
差向親族名代ヲ以上京爲致可然哉

太 政 官

一鎮臺支營設立之儀ハ既ニ御達濟ニ付陸軍省派出之士  
官當省派遣之官員ト同時出張諸事協議ヲ遂候様同  
省江御下命有之度

一明治之年号ヲ奉ニ年中之禮式御布告通遵奉之件  
一刑法之儀司法省定律通奉行爲致候ニ付差向取調ノ爲  
擔當之者上京之件

一少壯之者學事修業時世通知之爲上京之件

前三ヶ條御請仕候得共遲緩之疏入實際猶豫モ難  
回候間派遣之官員ヨリ督責速ニ履行可爲致候

一藩政改革之儀モ御請仕居候得共猶又說諭ヲ加ハ適度  
ニ應シ着手爲致度布置之體段ハ預メ御治定之御旨趣  
派出之官員江爲心得度候ニ付御沙汰有之度依テ爲

御参考別紙ヲ以相伺候

右件々至急御下令有之度琉藩之儀兼而上申仕候通名  
分條理而已ヲ以一時ニ致凌革候儀ハ至難之情實有之候ニ  
付先藩治之體面ノミヲ改メ事務ヲ各官ニ配當セシメ現實  
之取扱ハ後前之通据置其餘ハ一切不問ニ置キ漸次人氣之折  
合ヲ見定メ順叙ヲ追ヒ着手致度存候此段相伺候也

明治八年五月

内務卿大久保利通

太政大臣三條實美殿

太  
政  
官

明治八年五月二十日於外務省寺島外務卿英國公使ハーグス應接記之内 記者林部幸幸在

一 琉球一条を如何に京へくくるべきを貢物持来  
る人々今も京駐在に在り

一 或ハ然ラシ貢ヲ出スノ年ニ當リ俄年十月申  
奉為出帆し數月ヲ経テ福沙ニ達セリ

一 今後ハ支那ニ貢スル也

一 以東ニ差留ル也

一 貢セシメサル故也代ルモノヲ許ス也

一 何ニ許サズ

外務省

一 全体是近支那ニ貢スラ不差留難解事ニハ

一 薩摩藩ニ有る管轄中ニ同島人之支那ニ貢スル為

ノ多少有る有益有之故黙許セリ如何トナレハ

幕府行政之間ニ他人を以テ自由ニ外國ニ貿易

スルヲ不許因ニ薩摩を外人を中間ニ置キ之ヲ

名として外交ヲ為シ利益之裨益ヲ得多ク有リ

○ 以上は薩摩藩川際系ニ英國造船職者一人ニ訪談場  
場用名ニ此記法ニ依リて編入ス

外務省

外務省

外務省

本支の事務  
書一受係

昭和二年六月十四日北支事務官伊藤氏宛  
北支事務官伊藤氏宛

一 庄 徳平氏

一 橋本一氏

一 流 誠一氏

一 多 達 氏

一 小 野 隆 徳 氏

一 此 種 認 許 電 報 支 出 費 金

外務省

魯西岸と多岐を主橋として島を

魯西岸と多岐を主橋として島を

魯西岸と多岐を主橋として島を

一 庄 徳 平 氏 宛 電 報 支 出 費 金

外

一 庄 徳 平 氏 宛 電 報 支 出 費 金

大 河 川 沿 岸 沿 河 沿 河 沿 河 沿 河

一 庄 徳 平 氏 宛 電 報 支 出 費 金

一 庄 徳 平 氏 宛 電 報 支 出 費 金

一 庄 徳 平 氏 宛 電 報 支 出 費 金

寫濟

十八島と云ふのナレド海軍を以て是を以て多し

一 將士を以て其の人数を移す

ト云

有るは海軍の如く其の是れ上テラテ  
海軍の海軍の如く其の是れ上テラテ  
移す一上テ何れ其の如く其の是れ上テラテ

一 二十五年迄其の如く其の是れ上テラテ

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

外務省

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く



○ 河内 藤原 氏  
藤原氏の子弟が大河を以て人の山崩を  
中流に作る所なり

○ 立山 東海 西海 之 河内 河内 河内  
今もその代りに使部を以て了 陸海  
河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内

○ 河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内

○ 河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内

○ 河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内  
河内 河内 河内 河内 河内 河内

生年、癸丑年、三月、初日、

大いに波羅の式と比叢の使五世

の氏を元と名くつる所は日皇の

水々々々々々々々々々々々々々

も多々の所々々々々々々々々々

りたる所々々々々々々々々々々

に物々々々々々々々々々々々

外務省

一、

一、

一、

一、

一、

西条の御書

一 西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

外務省

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

西条の御書

外務省

別紙内務省上申琉球藩ヨ  
リ清國一慶賀使差遣度申  
立之儀朱書之通及指令候  
條為心得此旨相達候事

明治八年九月四日

太政大臣三條實美

太政官

琉球藩より清國へ慶賀使差出度旨  
伺出度義に付上申

清國帝統に付先規に依り當秋慶賀使に義  
別我之通詰高島親方より上申奉差出文中属  
出下有之度に付既<sup>に</sup>受<sup>け</sup>取<sup>り</sup>候旨に相<sup>付</sup>候旨に付其  
實否届量御受取之旨に付指<sup>し</sup>令<sup>す</sup>候旨に付後<sup>に</sup>後<sup>に</sup>後<sup>に</sup>  
可致<sup>し</sup>候旨に付上<sup>に</sup>申<sup>出</sup>度旨に付豫<sup>に</sup>定<sup>め</sup>候旨に付  
三有之先般松田内勤大丞被差出度旨に付其旨に  
之旨に可<sup>し</sup>有<sup>り</sup>之旨に儀に奉<sup>り</sup>候旨に付此旨に付指<sup>し</sup>  
相<sup>付</sup>候旨に付親<sup>に</sup>伯<sup>親</sup>雲<sup>上</sup>別<sup>に</sup>上<sup>京</sup>四<sup>條</sup>在<sup>候</sup>旨に付此  
地<sup>に</sup>於<sup>て</sup>是<sup>に</sup>如何<sup>に</sup>分<sup>り</sup>之旨に付指<sup>し</sup>令<sup>す</sup>旨に付別<sup>に</sup>候  
上<sup>に</sup>申<sup>出</sup>度旨

明治八年八月九日 内務卿大久保利通

太政大臣三條實美 太政官

伺之趣に先般同藩要分<sup>の</sup>義に付條々及  
指令並に通<sup>に</sup>相<sup>付</sup>候旨に付其旨に付同<sup>に</sup>藩<sup>に</sup>可<sup>し</sup>指<sup>し</sup>令<sup>す</sup>  
明治八年九月四日

同治皇帝當一月歲御醇親王之子即位  
 段係在唐船至京致玉乘及唐王代替之郎  
 賀使訪差在唐先規百當秋接貢船至唐賀  
 使訪差在唐先規百當秋接貢船至唐賀  
 有之及間被傳召立被下度此段申上及也  
 八年七月二十四日 琉球藩 高安親方印

内務卿大之保利通殿

太政官

第百十号之内 接濟

明治八年八月廿三日於本省寺島外務卿英國公使パークス應  
接記之内 記者井野上等謹

一 支那新開之國國より 琉球に軍艦と兵送<sup>送</sup>とあり  
一 新開地を多量に開墾し 北京を他國各地に  
留る我官吏より 何れも 中絶い

一 琉球の支那に貢する系といふ

一 琉人の福州より 貿易はさる多きあり

一 貿易の便に 各埠  
一 福州に知り 貢物と留るは 琉球に中絶あり 内地  
を 官吏とあり 琉球に 貢物あり

一 廈門に 領事あり 之に 管理ス  
一 去地 熟識セリ

外務省

一 廈門に 領事ハ 福州に 領事とも 兼帯する 官政時置  
あり 該地にも 派出し 又 琉球を 我官吏に 送るに 宜し  
とあり 以て 支那に 貢物と 爲せし

山東省ハ 新開地 變保 難事 一 係

1402240000

信局

内務省

田島外務口書記

去七月中支那政府より軍艦一艘琉球藩に向

申達せし事あり候旨有候等之主意より稟下了解を相

成り共其後不取致品川領事より琉球藩出張の

官負并、在厦門福島領事報知せし猶又城

島漁船獲捕等事居り其実否探索し候

依頼を以て、處別公書状寫之通り同文より回答を

外務省

品川領事より差取台を以て得差出

也

一月廿五

性



湾艦豫飛ハ駛巡ニ探偵

明日の曉ギヤデンガ司大沽号船名起錨奉便ニ付

中途米國ガ船出入ノ湾人コカウ人共外急

ヲ知セノ人ニハ探向ガ要今午時止ニ實不

知分ガ實各分知ガハ別傳信ガ察シテ中ガ

察スルニ多分虚説ナラシカ末知也

八月三日

城島謙光  
後補名察ス

品川領事殿

外務省

去七月中その政府より軍艦一艘既  
被藩へ向て差遣し、新簡知事  
多うとせし、其在上海品川  
在玩官負并厦門福嶋領事、  
福州備在城嶋領事、  
船中、  
申、  
若共也

美内所。内務省事務

子孫皆田等世田等後

内務省

中島三郎七郎

外務省

神

明治二十一年十月十日  
東京府知事

前東京府知事  
中島三郎七郎

明治二十一年

先所東京府知事  
中島三郎七郎

外務省

先所東京府知事  
中島三郎七郎

先所東京府知事  
中島三郎七郎

先所東京府知事  
中島三郎七郎

先所東京府知事  
中島三郎七郎

不文の事、如何  
書、実係

記録簿







○  
一 持子母存本石部當知事各  
の(田)可及子存(中)久(上)陸  
大(西)京(田)邑(長)考(西)心(三)高(可)名  
ト(レ)カ(方)力(地)方(ノ)ハ(ノ)ハ(ノ)ハ(ノ)ハ(ノ)  
概(要)と(ス)ル(ハ)シ(ト)ハ(一)年(一)月(に)  
カ(ノ)リ(カ)ル(カ)キ(ル)カ  
○  
一 西(平)川(守)の(田)部(守)の(田)部(守)  
の(田)部(守)の(田)部(守)の(田)部(守)  
外務省  
○  
一 長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
セ(シ)ル(カ)ル(カ)

○  
一 長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
セ(シ)ル(カ)ル(カ)  
○  
一 長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
セ(シ)ル(カ)ル(カ)  
○  
一 長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
セ(シ)ル(カ)ル(カ)  
○  
一 長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
セ(シ)ル(カ)ル(カ)  
○  
一 長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
長(球)の(あ)那(貴)族(の)事(も)ハ(一)也  
セ(シ)ル(カ)ル(カ)

江平と不陸多

九月廿

外務省